

閉会挨拶

司会：最後に、閉会の挨拶を本学文学部教授、アジア仏教文化研究センターの副センター長であります木田知生先生より頂きたいと思えます。木田先生、よろしく願いいたします。

木田：閉会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。本日はこのテーマの下、朝早くから多くの方々にご参集いただきました。お疲れになったことだと思います。本当にご苦労様でございました。そしてまた、8人の先生方には先ほどまでずっと、ご自身のお立場から貴重なご意見、さまざまに頂戴いたしました。刺激的なご提言もございまして、私も多くのヒントを頂戴したところでございます。また、先ほどのパネルディスカッションでは、新たないろいろな角度からお話をいただきまして、心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

ここで私どものシンポジウムについて説明させていただきたいのですが、本日のシンポジウムは、「アジア仏教の現在V」ということになっておりまして、今までに4回実施しております。その内容につきましては後ろの大きな用紙に書いてございましたが、改めて少し紹介させていただきますと、第1回につきましては東南アジア、ネパール、そして韓国の仏教につきまして。第2回につきましては中国そして台湾の仏教につきましてご報告をいただきました。第3回目はスリランカ、ミャンマーを中心にお話をいただいております。第4回につきましては仏教とボランティア活動ということで、シンポジウムを開催いたしまして、それぞれお聞きをいただいたところでございます。

本日はその第5回目ということで開催いたしました。ちょうどこれは緩やかな弧線を描きまして、遠く離れたインド、そしてそれ以外の地域から等々、私ども日本に話題が戻ってきて、いろいろなご議論をいただくということでございます。実は今日、発言させていただく方々の中で、私だけがおそらく仏教と関わりのない専門領域からお話をさせていただくことになると思えます。

私は中国近世史の一研究者でございまして、本日のシンポジウムにたくさんのヒントを頂戴いたしました。先生方のお話に依拠いたしまして、いくつか、私も感じるところがございましたが、その量も多くございますし時間も限りがありますので、一つだけ取り上げさせていただきます。

やはり私は中国を専門にやっておりますので、東アジアの特に、中、朝、日、この3国の領域の仏教のこれからのあり方については非常に大きな関心を持っております。一つだけ申しますと、今、いろいろな言語で書かれております仏教書の集成、大蔵経でございまして、特に漢文の大蔵経につきましては今後どう推移していくのかなというのが私の大きな

関心事でございます。

わが日本には有名な大正蔵がございますが、今後新たな大蔵経が編成されていくときに日本の仏典がどのように扱われるか。実は非常に懸念しているところでございます。またそれに連動してデータベース化が非常に早い勢いで進んでおりますけれども、仏教大辞彙とかデータベースとか、こういう、今までに考えたことの無いような問題点がこれから我々の関心事になろうかと思えます。

話をまた今回のシンポジウムの題に戻しますと、我々現在の日本に生きる身といたしましては、「日本仏教に未来はあるか」というテーマは極めて切実な問いかけでありまして、私ども、シンポジウムの今までの流れからしますと、必然的な帰結、流れであろうかというふうに思っております。先ほどご案内にありましたように、今後もこのシンポジウムを続けてまいります、秋には別なテーマで開催を予定しております。引き続き本日もご出席の皆様には、ご提言、ご援助いただきまして、私どももますます努力を続けていきたいと思っております。

最後になりますが、今日ここに参集されました皆様方のご健康をお祈りして会を閉じたいと思えます。本当にありがとうございました。

司会： 木田先生、どうもありがとうございました。先ほどの木田先生のご挨拶にもありましたように、この事業は2014年度が最終事業となっております。今年度もまたいくつかシンポジウム、研究会、いろいろ公開しておりますので、また積極的なご参加のほうをお願いいたします。また、本日、大学院生、学部生、まさしく日本仏教の未来を担っていただく若い方々も来ていただいております。我々は研究者の研究会等も公開しておりますので、また積極的に参加していただければと思えます。

本日は本当に長時間にわたりまして、基調講演、報告者の先生方、本当にありがとうございました。また、聴衆の皆さんもありがとうございました。どうぞ、お気をつけてお帰りください。以上を持ちまして「日本仏教に未来はあるか」、アジア仏教文化研究センターの第2回の国内シンポジウムを閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

【文責】 龍谷大学アジア仏教文化研究センター